

編集後記

■編集委員

委員長

藤田郁代

副委員長

立石雅子

阿部晶子

内田信也

石坂郁代

稲本陽子

勝木準子

菅野倫子

倉内紀子

倉智雅子

佐藤睦子

椎名英貴

中村光一

長谷川賢一

原由紀

原田浩美

春原則子

平島ユイ子

深浦順一

福岡達之

藤原加奈江

水田秀子

矢守麻奈

■英文要旨の校閲

Gordon BATESON

勝木準

この冬は厳寒が続いていましたが、ようやく光の春を感じるようになってきました。それと同時に国民の約半数が罹っているという花粉症の季節も到来しました。ウクライナ戦争、収束しない COVID-19、トルコ・シリアの大震災や地球温暖化などの難題に世界は直面していますが、すべての人々に穏やかで晴れやかな春が訪れることを願います。

3月は卒業のシーズンです。大学院で言語聴覚分野の学生を指導している私は今春2名の博士を世に送り出しました。1名は失語症者の呼称は時間を置くことにより改善するかを検討した研究、もう1名は発語失行におけるプロソディーの評価指標を音響学的に追究した研究を博士課程3年間で完成させました。いずれも言語聴覚臨床に役立つ新規性のある知見を得ており、論文発表を通して多くの方々と共有するものと思います。この2名はコロナ禍で言語聴覚部門の主任として臨床をリードしつつ、研究を完成させました。その永続的な努力と飽くなき探求心には頭が下がりますが、これは本誌に投稿される方々に対しても同じです。研究は社会的な行為であり、その基底には個人的な知的好奇心だけでなく、言語聴覚障害がある人の QOL、言語聴覚療法の進歩に貢献したいという強い思いがあるはずで、私は編集者として、厳しい臨床環境の中で志を持って研究を遂行し論文としてまとめられた方々の思いを真摯に受け止め、掲載までの過程を丁寧に支援したいと考えています。

さて今号には、原著論文3編、症例報告2編、調査報告1編が掲載されています。原著論文では発達障害における表出語彙-語連鎖、筋萎縮性側索硬化症の発話、ASDのある学生に対する臨床教育の問題が検討され、興味深い知見が得られています。症例報告では穴あきスピーチバルブの有用性、先天性相貌失認患者の社会参加、また調査報告では地域における失語症者支援の問題が取り上げられており、いずれも読みごたえのある内容となっています。

(藤田郁代)

言語聴覚研究 (第20巻 第1号) 2023年3月15日発行 [年4回 (3, 6, 9, 12月) 15日発行]

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

1部定価: 2,200円 (本体2,000円+税10%)

2023年年間購読料: 8,250円 (4冊, 税込, 送料販売会社負担)

編集・発行: 一般社団法人 日本言語聴覚士協会 (会長: 深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9階

(☎ 03-6280-7628 FAX03-6280-7629) <http://www.jasht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis

Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

© 2023, Printed in Japan

制作・販売: (株) 医学書院 (代表: 金原 俊) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

販売・PR部 ☎ 03-3817-5650 FAX03-3815-7804

印刷所 (株) 真興社

広告取扱 (株) 文京メディカル ☎ 03-3817-8036 FAX03-3817-8044